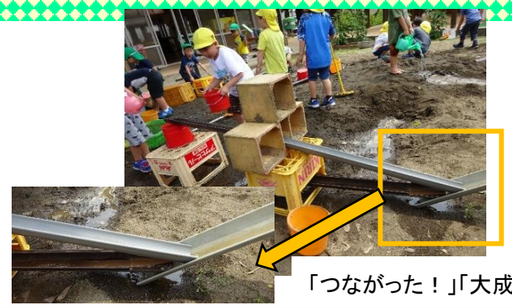
「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿とは？」

２０２２．１０．５　大分県教育委員会

「本当につながってる！」「やったあ！」

もっと深く掘ってみよう



「つながった！」「大成功！」

樋をかえてみたらどうかな？

CASE 37

5歳児

「つながった！」

（幼児の実態）

６月。砂場では、子どもたちが、円管や樋を地面に置いて長くつなげる、砂山の傾斜に沿って置いて水を流す、砂山の横で穴を掘って水を流したり溜めたりする姿などが見られました。振り返りの場では、それぞれがしていることや楽しかったこと、気付いたこと、困ったこと、遊びに必要なものなどを知らせ合ったり、話し合ったりしています。

協力園
大分大学教育学部
附属幼稚園

砂場に、数人の子どもが集まり、「水が進む道がつくりたい。」と二つのビールケースの上に、円管を渡して、水を流してみています。しかし、傾斜がないので水は流れません。

「これなら流れそう。」と一人がバケツを持ってきました。片方のビールケースの上にバケツを伏せて置き、その上に円管を載せて傾斜をつけました。「ここをスタートにしよう。」と、そこから水を流し始めました。でも、何度やっても、円管はころころ転がり落ちるので、「これじゃあ。水を流しにくいなあ。」と言っています。

その様子を見て、もう一人が、枠積み木を見つけて持ってきました。片側に一つ置いてみて、円管の支えになったのを見て、「大丈夫そうだ。」と言い、円管の両側に枠積み木を置き、円管を挟みます。円管は転がらなくなりましたが、筒状なので、バケツでは水が流せず、じょうろで水を流しています。少しずつしか水が流れない様子を見て、「もっとどんどん流したいなあ。」と言い始めました。

すると、「こっちでしたら、いいんじゃない。」と、一人の子どもが軒樋（＊以下樋）を持って来て、円管と取り換えました。バケツで水を流してみると水がたくさん流れました。「やったあ。やっとこれで水がまっすぐ進むね。」と、何度もバケツで水を流しました。

その後、反対側で樋に水を流していたグループと一緒に、樋をいくつも組み合わせて、つなげた樋から樋へ水が流れるように、何度も角度や置き方を変えて試していました。そして、ようやく、上の樋から下の樋へと水が流れ、ビールケースの下に流れ込むコースが完成し、「つながった！」「大成功！」と喜び合う姿が見らました。

砂山の周りでは、穴を掘って、そこに水を流して遊んでいます。やがて、穴どうしがつながり、水が溜まり始めました。子どもたちは、「お山の周りをぐるっと一周できる水の道ができたらいいのにね。」「それ、おもしろそうだね。」と話しています。横で一緒に穴を掘っていた保育者は、「どんなふうに掘っていったらいいかな。」「どこをつなげたいのかな。」と、子どもたちに問いかけます。「ここをこうしたい。」「ここを掘ったらいい。」と言いながら、場所を指さしたり、砂場に線をかいたりしながら、子どもたちは掘り進め始めました。「水で砂を溶かしてあげる。やわくなるよ。」と、バケツで水を運んできて、友達が掘っているところに水をかける子どももいます。

浅い場所には水が溜まらない様子を見て、一人が「『いっせーの！』で入れたら、溜まるんじゃない。『つせーの作戦』やってみよう。」と言います。それを聞いた他の子どもたちも、「『いっせーの作戦』いいね！」「いっせーの！」と、一緒に水を流しますが、すぐに水が染み込み、溜まりません。近くで溝を掘っていた子どもが、その様子を見て、「もっと深く掘らないといけないのかな」と、深く掘り進め始めました。「もっと深く穴を掘りたいから、手伝って。」という声に、他の子どもたちも次々に集まってきて、一緒に深く掘ったり、水を流したりしています。

保育者も、「だんだんつながってきたね。」と、言葉をかけながら、一緒に掘り進めます。しばらくすると、砂山の周りにぐるっと一周深い溝ができ、水が溜まりました。子どもたちは、「つながった？」「つながっているか、一周歩いてみるね。」と、『水の道』を歩き、一周していることを確かめると、「本当につながってる！」「ゴール！」と、口々に声を上げました。そして、何度もぐるぐると歩きながら、「やったあ！」と歓声を上げていました。

その後も、様々な形状の樋や菅を組み合わせる、枠積み木を重ねて高さを変える、深さの違う穴を掘る、その穴にバケツで水を入れ、何杯分になるか量を比べるなどする姿が見られました。これまでの体験を基に、高さや深さなどに目を向け、形・数量への興味・関心を深めていると思われます。

思考力の芽生え・協同性
保育者の援助・環境構成のポイント

- 自分たちで選んだり、試したり工夫したりできるような環境の構成（長さ・形状の違う数種類の円管や樋、大きさ・長さの違うスコップ、台にするビールケース、高さを変えられる枠積み木などの準備）
- 子どもたちの思いを受け止め、具体的な考えを引き出したり、周りに広めたりする保育者の言葉かけ
- 子どもたちの目的が実現できるよう見守る、一緒に掘り進める、共に喜ぶなどする保育者の存在
- 考えを伝え合い、一緒に活動する友達の存在
- 思いや考えを共有する、遊びに必要なものを自分たちで考えるなどして、次の活動へとつながる振り返りの場の設定

事例から見られる10の育ち

協同性

「水が進む道をつくりたい」「砂山の周りを一周する水の道をつくりたい」と、自分のイメージやしたいことを言葉にして伝え合うことで、目的を共有している。そして、共通の目的の実現に向かい、考えを伝え合ったり、一緒に試したりする姿が見られる。

工夫したり、協力したりすることで、どちらの目的も最後には達成し、つながったことを喜び合う姿が見られた。自分たちの力でやり遂げたことが、充実感へとつながったと思われる。

事例から見られる10の育ち

思考力の芽生え

水を流すためにどうすればいいのかをそれぞれが考え、傾斜をつける、管が転がらないようにする、形状の違う樋に変えるなどするといいのではないかと予測し、必要な道具を選んで、試行している。樋の組み合わせ方も角度や置き方を変えるなど工夫している。

砂山の周りを一周する『水の道』をつくるにはどうすればいいかをみんなで考え合い、掘るところをやわらかくする、水を一斉に流す、深く掘るなど、試行錯誤しながら、やり方を見つけ出している。

何度も試す中で水の性質や砂の性質、水と砂の関係、穴の深さと水の量の関係などに気付いたり、友達の考えに触れたりしながら、思考を深めていったと考える。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」

数量・図形への関心・感覚　／　自然とのかかわり　／　言葉による伝え合い

思考力の芽生え　／　**協同性**

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

＊本シートは、大分大学教育学部附属幼稚園の保育記録をもとに、県幼児教育スーパーバイザーが、園内研修で助言を行い、共同で作成したものです。